

北京冬季オリンピックが20日閉幕しました。開催国、中国政府による重大な人権侵害と世界から批判が集まつた観察の大会でした。国際オリンピック委員会（IOC）は是正を働きかけましたが、中国政府擁護に終始しました。スポーツを利用して権力に不合意な事実を繰り返す「スポーツウォッシュ」という言葉もかつてなく聞かれました。ドーピングの根深む影響になりました。

中国の抑圧不問の一〇〇

「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進」。五輪憲章が掲げた目標です。中国の現状がこの理念を離みにじつっていることは明らかです。新疆ウイグル自治区での民族排斥、香港の民主化運動などもその象徴です。IOCは2020年3月に「人権戦略のための勧告」を公表し、運動選手は重大な人権侵害です。中国は批判を拒否する一方、聖火リレーの最終走者にウイグル族の選手を起用して融和を演出しました。批判をかわすために選手を利用するのは許されません。IOCは2020年3月に「人権戦略のための勧告」を公表し、

十 張

北京冬季五輪閉幕

動選手は重大な人権侵害です。中国は批判を拒否する一方、聖火リレーの最終走者にウイグル族の選手を起用して融和を演出しました。批判をかわすために選手を利用するのは許されません。IOCは2020年3月に「人権戦略のための勧告」を公表し、

したじ発表するなど、中国政府の隠蔽に加担したとしか思えない対応でした。

北京五輪組織委員会が、中国の法律や規則に反する選手の行動が処罰の対象になるとの方針を発表しました。しかし、IOCは口をつぐみました。

したじ発表するなど、中国政府の隠蔽に加担したとしか思えない対応でした。IOCは2020年3月に「人権戦略のための勧告」を公表し、

は受け止めるべきです。まして開催国が選手に圧力をかけることをすれば、根絶に向けた取り組みを徹底してはなりません。

ロシア・オリンピック委員会のフュギュアスケーター、ワリエワ選手のドーピング疑惑への対応も大きな問題となりました。違反が確定していないとはいえ、禁止薬物に陽性反応の出た選手の出場を、年齢の低さを理由に認め

厳しく問われた人権への姿勢

中国の人権状況の深刻さに言及していましたが、具体的な行動などはありませんでした。

人種差別や社会の不正に選手が抗議の意図を示すことは、人権を尊重する五輪憲章に照らして当然の行為です。しかし、IOCは憲章の行為です。

アーティスト選手、彭帥さんが張高麗前副首相から性的暴力を告発された問題で、IOCは説明を避けました。アーティスト選手村での行動を禁止してしまった。アスリートから解禁を求める声で彭さんの無事な様子を確認する声が上がつてきました。IOCは受け止めています。アスリートからも改善を求める声が上がってきます。

何のための誰のための五輪なのか、「人間の尊厳」をうたう五輪本来の理念に立ち返る必要があります。それを保障するため健全な運営が求められます。ロシアは組織的アーティスト選手に対する制裁を受け、違反選手なしの条件を満たした選手が個人資格で出場を認

められています。その中でまた違反が問題になりましたことは深刻です。根絶に向けた取り組みを徹底してはなりません。

ロシア・オリンピック委員会のフュギュアスケーター、ワリエワ選手のドーピング疑惑への対応も大きな問題となりました。違反が確定していないとはいえ、禁止薬物に陽性反応の出た選手の出場を、年齢の低さを理由に認め